平成　29　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0572510659		
法人名	社会福祉法人　青嵐会		
事業所名	グループホーム　たんぽぽ西目		
所在地	秋田県由利本荘市西目町沼田字新道下２－６		
自己評価作成日	平成29年10月3日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/05/index.php

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人　秋田県社会福祉事業団
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1
訪問調査日	平成29年11月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

・入居者様の個々の能力を活かし役割を持って生活を送られている。
・週1回の健康チェックにて相談できる環境の中で過ごしていただいている。
・家庭で過ごされている雰囲気に近づける環境つくり、その人らしさを尊重し安心、笑顔で過ごせるよう職員一丸となり取り組んでいる。
・毎日のレクでは体操などを取りいれ意欲的に参加されている。
・季節に合った食事や行事を大切にしている。
・穏やかで元気、また笑顔が素敵な入居者様が多い。

天窓からの光や暖色系の照明で温かい雰囲気である。小上がりの畳では洗濯物をたたむ姿やテーブルで自由に塗り絵をしたり、台所で調理をしていたりと、利用者は思い思いの過ごし方をしている。年齢層が高いが、利用者は年齢に負けないような元気さを持っている。天気が良いと、すぐに数人で散歩に出掛けたり、その日の会話で出た話題などから、全員で希望の場所や季節に合わせた場所へ行くなど、普段から身軽に外出を行っている。職員研修や受診介助など、職員全員が公平に行けるよう勤務等の調整を行っている。地域住民とは運営推進会議や避難訓練、事業所の祭りや町内の行事等で密接な関わりがあり、事業所への協力は安心につながっている。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
64	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員で話し合い作成した理念を見やすい場所に掲示、意識の共有、実践に取り組んでいる。	年に1回、事業計画を作成する際に、理念に基づいて事業所の年間目標を職員で話し合い決めている。昨年の目標の評価についても、職員一人ひとりが用紙に記入し、話し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事に参加したり、ドライブに出かけたり、町内を散歩する時は挨拶を交わしている。美容院や喫茶店に出掛けたりしている。	春祭りで地域の子供みこしが来てくれたり、地域の夏祭りへ利用者が出向いたりしている。また、事業所の夏祭りや忘年会等に、地域の方々に来てもらうなど、地域と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	実習生を受け入れたりしている。老健職員と当ホーム職員との交換実習も行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に開催し意見交換や相談などを行い、サービスの向上に活かしている。	運営推進会議には、行政や町内会、民生委員のほか、町内協力委員が多数参加しており、活発な意見交換をしている。事業所の状況や新規事例、ヒヤリハットについての報告や、前回の事例対応への振り返りのほか、認知症についての勉強会を行うなど、多彩な内容で開催している。また、年に1回は利用者全員が自己紹介をして、運営推進会議のメンバーに知ってもらえるようにしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域ケア会議への参加、情報提供、推進会議の開催、認定調査時情報提供し、連携に努めている。	月に1度開催される町の地域ケア会議へ出向き、徘徊ネットワークを活用した事例発表を行ったり、SOSネットワークについて等、情報収集をしている。市役所職員とは電話で情報伝達や相談をし、協力関係にある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束を行う入居者はいないが、定期的に勉強会を開催、拘束について職員間でも話合っている。	外部研修や法人研修、内部研修等に全職員が交代で参加出来るように勤務調整等で配慮されている。センサーマットについても、使用する前に職員で注意点等を話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	定期的に勉強会を行い意識を高め、防止に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全職員が把握している訳ではない。活用もされていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に管理者が説明をし理解、了承を得ている。また、いつでも疑問点など相談できるよう伝え、理解、納得の得られる取り組みを行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、苦情箱を設置しているが、利用者や家族が意見や要望を話しやすい雰囲気つくりをしたり、随時家族へ報告、連絡、情報を伝えている。家族からの意見はカンファレンスなどで周知している。	利用者へは普段良く話すようにして、意見を聞いている。家族へは、毎月の請求書に同封したお便りに普段の様子を載せている。事業所の夏祭りや忘年会で家族が参加したり、面会に来所した際には様子を伝えながら意見を聞くようにしている。	普段から外部の意見を聞くことができている。今までとは違った意見や疑問などをさらに吸い上げられるよう、意見を聞く方法や手段についても検討されることを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員カンファレンスや状況に応じて、話し合う機会を設け反映させている。	職員は管理者へ意見を言いやすく、職員同士も話しやすい関係にある。毎朝夕の申し送りや、毎月のカンファレンスで出た意見は、日々の業務に反映されている。年1回の管理者との面談では、職員一人ひとりの自己評価や目標などを話し合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	考課表の自己評価をもとに、面談等行い職員の状況を把握し、職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に参加する機会があり、ホーム内での勉強会も定期的に行っている。研修に参加した職員は勉強会で報告するなどし知識の共有を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	老健との交換実習や研修参加やGH連絡協議会参加などで各職場の方々とのネットワークづくりをしサービスの向上に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員間でその方の情報、生活歴などを把握し表情、動作等を観察しながら話しやすい環境づくりに努め、安心出来るように声かけし、信頼関係につなげている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時や入居開始時、家族の不安や要望を傾聴しながら受け止め、関係性が築けるようにしている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	作業を共に取り組みながら知恵や慣わしを教えて頂いたり、共に支え合う関係を築いている。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームの行事の参加や受診介助、面会、外出、外泊等、電話での会話など家族の協力を得ながら、本人の生活を共に支援している。また、家族には随時情報や様子を報告している。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域行事の参加、知人、隣人の面会があったり、馴染みの場所に出かける機会を多く作ったり、家族の協力を得ながら支援している	利用者の元同僚や、自宅の近所の方などが事業所へ会いに来てくれている。利用者が家族や親戚に会いたいと、出かけることもある。病院受診の帰りには自宅付近をドライブしたり、お盆には墓参りなど、利用者の希望を実現し、馴染みの人や場所との関係を保てるようにしている。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しないよう職員が間に入り交流したり、気の合う人同士が関わりを持てるよう支援したり、行事や作業を通して、お互いが支え合えるように努めている。		
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後もご家族が来居されたり、老健へ出向き面会など行い関わりを持ち続けている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人からの希望、要望を聞く機会を設け、カンファレンス等で話し合い出来る限り、希望や想いを取り入れ意に添うよう努めている。	普段から、職員は利用者と一緒に過ごすように心がけ、話を聞くようにしている。食べたい物や行きたい場所等、その中で出た意見は実現されている。サツマイモの料理が食べたいと希望が出れば、すぐに献立を変更して調理したりしている。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい,これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活歴や環境等の情報を家族やケアマネジャーから提供してもらう、利用しているデイなどへ訪問させていただき情報を得たり自宅を訪問させていただいたりし把握に努めている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の状況を把握し、本人の出来ることを見極め気づいた事はカルテ記入するなどし、把握に努め職員で共有している。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者、家族の意見、要望を聞きながら、又、日々の会話の中から情報を得たり、カンファレンスやその都度話し合い現状に応じた計画を作成している。	毎月のカンファレンスに参加できない職員は、事前に利用者全員について、気付いた情報を用紙に記入して提出し、本人、職員の情報を出し合い、家族からの情報を含めて、管理者が作成している。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の介護記録、気づきノート、カーデックス記載、申し送りやカンファレンスで共有し、日々のケアに活かしている。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市町村、医療機関、併設施設、地域住民、消防等の協力を得ながら安全な暮らしができるように支援している。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関への定期受診が受けられるよう支援している。又、家族が受診介助する場合は、情報提供用紙を持って行ってもらっている。歯科医は協力医とし、家族に入居時説明、同意を得ている。	法人内の看護師が週に1回、健康チェックに来ている。受診は本人、家族の希望する医療機関を受診している。職員全員が順番で受診介助ができるよう、調整して計画的に行っている。情報提供用紙は、医師に伝えなければならないことが書いてあり、受診結果の用紙を医師からもらうこともある。家族へはその都度電話で受診内容を伝えている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設の看護師が週1回健康チェックに来居、また、24時間相談や受診指示など密に対応できている。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院関係者と情報提供を密に行い、また、随時連携を図りながら、早期退院できるよう努めている。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に説明、同意を得ながら早めの対応策に向け、方針を共有し、状況に応じ取り組んでいる。また、入院した場合などは家族、病院、老健などと情報を密にしている。	寝たきりになってしまった場合や、日常の医療処置が多くなった場合は、法人内の併設施設へ移動することになる。普段から健康チェックで看護師が看ていることなど、併設施設としてスムーズに情報共有や連携が取れる状況である。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを見直し、周知し勉強会や救命講習受講し把握に努めている。また、実際の場面で一緒に実践、指導して身につけている。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に地域住民を協力員として、避難訓練を実施し併設施設の協力体制も築いている。	事業所が高台にある為、避難訓練は主に地震や火災を想定し、日中及び夜間想定で行っている。消防署のほか、地域の方も多数参加し、緊張感を持って臨んでいる様子が記録からも伝わる。職員が利用者の色々な場面になりきって、荷物をまとめたり、転倒したり等、わざとスムーズにいかないようにした訓練も行っており、反省点や意見も多く出るなど、身になる訓練につなげている。	
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳をもった言葉かけや接し方を意識し、心がけている。言葉使いが的確でない場合等は職員間で注意し合っている。	言葉がけに注意をしている。利用者を一人にしない。急かさない。など、管理者や職員は常に意識して、その人らしく生活できるように、日々考えながら接している。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の思いや希望を、意志表示できるように支援し、出来ない人には表情や動作を観察しながら、自己選択できるよう職員と一緒に話し合いながら行えるように努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の生活リズムを大切にしながら、その人に合ったペースで生活できるように支援しているが、マンパワーの都合で希望に添えないこともある。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容院で髪染めやパーマをかけたり、行事や外出、受診時には、好きな服を選んだりオシャレを楽しまれている。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれ役割を持ちながら、職員と一緒に調理、片付けをしている。又、頂き物（山菜や魚）や畑で収穫した野菜や取り入れ食事を楽しめるように支援している。	献立は併設施設の管理栄養士が立てている。その時の利用者が食べたいものや事業所の畑の野菜、近隣等からの頂き物によって、計画を変更して料理している。買い出しへは利用者も一緒に行っている。食事に関することも利用者ができることは行い、楽しみを感じてもらえるようにしている。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設施設の管理栄養士の献立をもとにして、個々に応じた量や好みの食材を調整し提供している。水分量も個別に対応している。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内に食残物が残らないように、毎食後お茶を飲んでもらっている。毎食後の歯磨きの声かけや就寝前、義歯洗浄を行っている。		
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的に声掛けし、トイレ誘導している。個々のその時々の状況に応じて綿パンツ、リハビリパンツなど種類を使い分けて支援している。また、夜間のみポータブルトイレを使用する方もいる。	自力でされる方、介助の方もトイレで排泄できるようにしている。排泄チェック表の活用や排泄用品を使いやすいものに変更するなどして、気持ち良く排泄してもらえるよう配慮している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に応じて起床時、水分を飲んで頂き、朝食時乳製品を取り入れている。朝のラジオ体操、散歩やレクリエーションに適度な運動を取り入れている。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日別で午後入浴のみとなっているが、個々の健康状態（失禁、皮膚疾患等）受診等を見ながら、その都度支援しているが夜間入浴は職員１人のために希望に添えない状況にある。	入浴は週に3回入り、湯の温度や量、入浴時間、好みのシャンプーや洗髪時の洗い方の強さなど、細かい部分の生活習慣を利用者に合わせて介助している。入浴を好まない方でも、声掛けや時間をずらして誘い、入浴ができている。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室や畳、ソファー等で思い思いに休息し、夜間は、照明や寝具を状況に応じて工夫し、安心して眠れるように支援している。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報を活用しながら、把握している。臨時薬の場合は、状態を観察しながら副作用の有無を把握したり、薬局の先生や併設施設の看護師に相談したりしている。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来ることを役割として取り組めるように畑仕事や外出等で、気分転換を図れるよう支援している。晩酌の習慣のある方にはノンアルコールビールを提供している。夏祭りでは生ビールを飲まれる方もいる。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホームの行事での外出（ドライブ）、行事への参加、散歩、買い物、畑仕事等、日常的に閉じこもらない生活を心がけている。又、家族の協力を得たり、個別の外出も心がけている。	天気が良いと、すぐに数人で散歩に出掛けたり、話の中で、出かけたい希望が出ると、その日のうちに全員で道の駅へ行き、足湯に浸かってきたりしている。自宅へ帰ったり、行きつけの床屋へ行ったり、季節に合わせた外出をするなど、外出は身軽に行っている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームで預り金として管理しているが、管理出来る方は、自分で管理し、受診時、美容院、買い物等の支払いをされており職員が見守りしている。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望される時は、電話出来るよう支援している。また、携帯電話を所持されている方もおり、自由に兄弟や家族と会話楽しまれている。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、臭い、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	換気を心がけ、温度、湿度の管理をし、不快を招かないよう配慮し、季節の花や貼り絵など飾り季節を感じる居心地のよい環境に努めている。	廊下は外出時の写真や利用者が作った貼り絵などが貼ってある。ホールは天窓からの光や暖色系の照明で温かい雰囲気である。小上がりの畳では洗濯物をたたむ姿やテーブルで自由に塗り絵をしたり、台所で調理をしていたりと、利用者は思い思いの過ごし方をしている。お茶を飲みながら歌や笑い声が心地良く響いている。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	思い思いに居室、ソファー、畳、ベランダ等で利用者同士で語り合いながら、くつろいで過ごしている。一緒に昼寝される方もいる。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力を得ながら、使い慣れた家具、家族の写真、位牌等持って来られ、心地よく過ごせるよう工夫している。また、本人の希望にて上手く縫ったぬり絵など張ったりし、自分の城を作られている。	テレビや布団など、自宅で使っていたものを持ち込まれている。部屋は温水の出る洗面所やチェストがある。各部屋に合わせ、エアコンで温度調節をしている。ベッドの配置も以前過ごしていた時と変えないようにして事業所に慣れてもらえるよう配慮している。掃除、消毒は職員が行い、モップなど出来るところは利用者が行っている。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、居室に表示や目印する等工夫し、廊下などは障害物など置かないよう安全な歩行に配慮している。		